

京都大学全学共通少人数セミナー  
平成19年度講義ノート

第3回 がんとは何か

第1回講義の要点として、次の点を再確認する。

数概念構築の意味：有限の操作で無限を想起する。

そこでは、「同じで異なる」という矛盾系による全体性表現が鍵である。

生命現象を理解するには、同じような方法論が有効であるに違いない。

そこでは、「Aであることと、Aでないこと」の両義性が鍵である。

具体的な実践例として、対象Aを理解するには、Aでないものに一度視点に移すことによって、逆説的にAが理解できる。

### 創造とは何か

創造性の発現とは、今まで誰も気づかなかった類似性の発見—「同定」—である。

(湯川秀樹、物理学者)

数学的創造とは、長い間知られていたが互いに無関係であると考えられていた事実間に、思いもよらなかった共通点を提示すること。

(アンリ・ポアンカレ、数学者)

有機的創造過程とは、二つの互いに無関係なシステムが接続—「連合」—されるとき、突然以前にはなかった特性が生ずること。

(コンラット・ローレンツ、動物行動学者)

客観的な要素体系の複製ではなく、主観的な体験を伴う再構成が必要である。

→ 対象、問題、認識を自分で創り出す